





# 新春を迎えて

庁長 小佐野 正史

皇紀二六八三年。令和五年癸卯年を言祝ぎ皇室の弥栄と各位の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

昨年は各支部を通し、山梨県神社庁の運営に多大なご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては、神楽殿昇殿には人数制限があるものの、参拝者が戻りつつあることは何よりでございます。神宮大麻暦頒布につきましましては、増体に向け関係各位のご尽力を賜りました。尚一層の神宮奉賛と次回神宮式年遷宮の御盛儀を目指し、啓発に努めてまいる所存であります。

昨年よりのロシアによるウクライナへの軍事侵略により、安

全保障のリスクの高まり、北東アジアにおける近隣諸国の動向も懸念される状況が深まっております。また、世界中で気象災害が頻発し、国内においても大規模自然災害が毎年発生しております。世界規模で蔓延した感染症は、生活様式や社会全般はもとより、個々の価値観にも多大な影響を及ぼしている状況が続いています。ワクチンにより一時は収束傾向にもありましたが、次々と形態を変えた変異株なるものが現れ、斯界においても祭礼の規模縮小中止が余儀無くされています。

ここで私たちがよく考えなければならぬのが祭りの本義であり、こったのか、なぜ祭りをしている

るのか。昨今の少子高齢化、過疎などの要因により古来の神事が減少しています。そのような時期に感染症の蔓延。もちろん発生当時は得体の知れない感染症ということもあり中止は止む無しと思われました。しかし、対策次第では防ぐことも可能なことも分かってきました。大神様のご神意に因應するためにいかにしたら本義を失うことなく齎行できるのか、氏子の方々と前向きに考えなければならぬでしょう。中止が続くと恐らく再興は厳しくなる一方です。奉仕くださる方の技術や祭りに対する心の継承も重要であります。私共関係者は一意専心、神社道の興隆に邁進する時と存じます。我が国の精神的支柱としての敬神尊皇の念を次世代に継承発展させるためにも、斯界が地域で何か役割を果たして行くことが求められています。何をすれば最適かを地域ごとに語り、関係者一丸となって地道に

活動して行くことが必要不可欠です。コミュニティの中心に神社があり、祭りを中心に人々が繋がる。神様への感謝を忘れることなく、大御心をいただきながら日々の生活に励む、そのよ

うな人々が地域に溢れる姿を共に取り戻してまいりましょう。コロナに負けず相互の連携を緊密にし、神社神道の興隆と地域社会の平安に寄与すべく、神社庁の諸施策に格別のご理解と旧に増してのご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。挨拶いたします。

活動して行くことが必要不可欠です。コミュニティの中心に神社があり、祭りを中心に人々が繋がる。神様への感謝を忘れることなく、大御心をいただきながら日々の生活に励む、そのよ

活動して行くことが必要不可欠です。コミュニティの中心に神社があり、祭りを中心に人々が繋がる。神様への感謝を忘れることなく、大御心をいただきながら日々の生活に励む、そのよ





### 敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道徳の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

- 一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
- 一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること



### 新春を迎えて

山梨県神社総代会

会長 小尾 武

新年明けましておめでとうございませう。

令和五年の新春を迎え皆様ご家族揃つて良い年を迎えた事とお喜び申し上げます。

畏くも天皇皇后両陛下におかれましては、天機愈々麗しく日々ご公務にあたりご精励遊ばされております事慶賀に存じます。昨年は多くの災害に見舞われた年でありました。両陛下におかれましては、被災地に心を寄せられて、その都度足を運ばれお見舞い遊ばされた事は国民に思いを寄せられている証だと思ひ慶賀に堪えないしだいであります。

毎年一月二日に、皇居において国民から祝賀をお受けになる行事の新年一般参賀もコロナ禍で中止されておりましたが、三年振りに執りおこなわれ多くの国民が参賀され、陛下からのお言葉を賜りましたことは新年を迎えて良き行事でありました。新型コロナウイルス感染症が

まだ猛威をふるっている昨今であります。が感染症対策をしっかりと取りながら前に進んで行かなければ経済が潤滑に回って行かないと思ひます。

昨年は伊勢の神宮大麻が明治五年に全国に頒布されてより百五十周年の節目にあたる年でもありました。神社庁においても「神宮大麻都市領布向上計画委員会」により神宮大麻の増体を願ひ事業を展開しています。しかしながら、日本の人口数一億二千八百万中伊勢神宮の認知度が九十八パーセントに對し知らない人がほぼない中、神宮大麻を認知している割合は、三十・八パーセントで実際に神宮大麻奉斎しているとの回答は十四・八パーセントに留まるとの事。経済状況や世相なども背景とする意識の多様化・少子高齢化や過疎化などにともなう世帯数や人口の変化等様々な要因があることが、今後の課題かと思ひます。

「不活動神社対策委員会」(委員長金子寿元金山神社宮司)に出席し、不活動神社の多さに驚かされました。今後どのような対策で取組んでいくのが課題です。

昨年四月一日より県の総代会長を拜命して以降、総代会長としての経験が積み重ねるためにはと思ひ諸会議に欠席すること無く参加いたしました。一番の驚きは、会議の多さです。目標に向かつて前進するには、この様な道程無くして進むことが出来ないことを実感しました。

又各支部総会に出席させて頂きました。が、それぞれ支部の宮司総代の皆様が各神社の護持運営に對し真剣に取り組んでおられることに感謝申し上げます。

総代の役割は宮司の良き理解者として、一致協力して祭祀の振興や神社活動の充実を図ることが重要な務めではないかと思ひます。微力ながら力を注いでいきたいと改めて感じています。結びにこの一年着実に歩み良き年であることと関係神社のご発展と皆様方のご健勝ご活躍をお祈り申し上げ挨拶といたします。

# 本庁十月定例評議員会

本庁評議員 上文司 厚

神社本庁の令和四年十月定例評議員会が十月十三日、神社本庁大講堂で開催された。開催日が山梨県神社関係者大会と重なったため、小佐野庁長と小尾総代会長は止むを得ず欠席。当県からは、庁長代理の桃井神社庁理事と私の二名が出席した。

午後一時三〇分に開議され、開会儀礼を経て鷹司尚武統理が壇上に上がった。挨拶としての登壇だったが、内容は所謂百合丘職舎売却問題を始めとする諸問題を話題にして、六月三日付で評議員全員宛に郵送された文書の趣旨を繰り返して、前総長の田中恆清理事ではなく芦原高穂理事を総長に指名すると発言し出席者へ理解を求めるという異例のこととなった。

続いて北山秀彦議長、副議長二名が席に着き、評議員の異動報告、議事録署名人の指名、理事の補欠選挙が順次行われた。次に、小野貴嗣常務理事から「令

和三年定例評議員会における評議員提出決議案件等の処理結果」「令和三年度神社本庁業務報告」がなされ、両件共に承認された。

その後、業務報告の補足として荒井実総務部長が発言。神社本庁職員らの地位確認等請求訴訟の最高裁判決を受けての対応を説明。続き総長の選任問題について、五月の臨時役員会で統理が芦原理事を指名したが理事による選任にはならなかったにも関わらず、芦原氏が自ら代表役員変更登記申請を行ったので仕方なく仮処分申し立てを行い、七月にそれが認められたと報告。庁規の「総長は、役員会の議を経て、理事のうちから統理が指名する」の解釈について本庁の主張を説明し、芦原理事の総長は認められない意を示した。

この後は荒井部長の補足説明に対しての質疑応答が続いた。

本庁の主張に声を荒らげ批判する評議員、それに対し本庁を支持する評議員、また常務理事、理事からも発言があり、この場面は長時間に亘った。予定時間を大きく超えてしまったので議論は硬直したまま質疑応答は打ち切られた。

次に令和三年度の決算関連の「一般会計歳入歳出決算」等六議案が上程され総長及び財政部長が説明。監事の会計監査報告、業務監査の所感を語った後、六議案は原案通り認められた。

次に「令和四年度一般会計歳入歳出補正予算」が上程され、「意義あり」の怒号もある中だったが原案通り承認された。

「御代替記念事業特別会計剰余金の取り合ひについて」の議案が原案通り承認され、全ての議事が終了した。

閉会にあたり田中総長が挨拶を行い、神殿拝礼で閉会となった。

全ての議案は認定・承認されたが、五月の評議員会に続き今回も憂いばかりが目立つ会議だった。晴れる日を待つばかりである。



## 神宮新穀感謝祭

東山梨支部

支部長 日原盛幸

令和四年十一月十七・八日の両日、伊勢神宮新穀感謝祭に東山梨支部から二十八名が参加しました。

コロナ禍により長い閉塞の日が続いていましたが、九月頃から観光を奨める動きに安心して参加者を募る事が出来ました。

当日は好天に恵まれ、車中は三年ぶりの旅行とあって、大方が高齢者なのに子供のようなウキウキ気分が満ちていました。

伊勢到着後、何時もの様に両宮の清々しい御垣内参拝を了え、代々神楽の奉納にも参列でできました。当初は感染対策上各支部代表五人、との話もありましたが、事務局の腐心のお陰で全員揃ったの参列が叶いました。

二日目は、愛知県尾張國一之宮真清田神社の正式参拝で、昇殿参拝後、禰宜様より由緒の説

明を受け、辰守弘宮司様には別室にて、尾張地区の古今の信仰状況や世代間の格差に憂国の情も示され、琴線に触れる講話を賜りました。

扱、今回で六十八回目となる伊勢神宮新穀感謝祭は、昭和二十九年に国民総参宮の趣旨のもと、豊かな稔りを大神様に感謝すべく始められた行事ですが、高速道路網の発達と神社関係者の努力により、年々歳々参宮団の増加と内容の充実を観ます事は慶賀に堪えません。

伊勢参宮への思いは遙か平安時代の末期に遡ると云われ、江戸時代には御師の祈祷した御祓大麻が全国九割の家庭に届けられたと記録されております。

山梨市三富の山奥にも「お伊勢の宮」なる場所が在り、此処で伊勢参りの折、家族・知人と水杯を交わしたそうです。伊勢への思いは昔も今も変わらない事に思いを致した旅でした。

南都留支部

支部長 宮下重範

令和四年度の神宮新穀感謝祭の参拝事業は、去る十一月十七・十八日の両日に催行され、南都留支部では百六十五名の参加を得て、バス五台に分乗して参拝して参りました。

コロナ禍のため、当支部では、神宮参拝団を編成しての参宮は三年ぶりとなりました。

収束しきれないコロナに実施を危ぶむ声も囁かれましたが、心配を払拭するように多くの皆さんのご参加を頂き、心から感謝する次第です。

支部内各地を四〜五時には未明の静寂を突いて出発し、新東名高速の駿河湾沼津SAに集結、確認後全車揃って一路伊勢に向かいました。

予定通り外宮に到着、崇敬会の案内により、御正宮の御垣内参拝、多賀宮を遥拝の後、内宮へと歩を進めました。

昼食を神宮会館で済ませ、おはらい町・おかげ横丁の散策にと、正式参拝の緊張の中にも暫し心を和ませたところです。

内宮では御正宮の御垣内参

拝、荒祭宮を遥拝し、神楽殿に赴きました。参入は、感染防止対策のため最大百二十名に制約されていましたが、関係各位のお計らいにより全員揃って御神楽を奉納し、一同心身の清浄と身の引締る思いを抱いて参拝を了することができました。

翌十八日は、弘仁三年（八一二）創建の滋賀県甲賀市に鎮座し、坂上田村麻呂公を主祭神にお祀りし厄除けで著名な田村神社を訪い、正式参拝をさせて頂きました。三万坪の広大・閑静な境内地に凜と佇む拝殿・本殿を拝し両の手を合わせるのと、より一層心の洗われる思いを抱かせて頂いたところです。

田村栄治宮司様を始め、職員の皆様には、出迎えからお見送り迄大変お世話になり、心からお礼申し上げます。

折しも神宮大麻全国頒布百五十周年の佳節の年、神縁を賜り三年ぶりの大行事を恙無く果すことが出来ました。これも偏にご足労を頂いた神職を始め、ご参加頂きました皆さん方のご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。



# 神社関係者大会開かる

峡南支部 支部長 山本純司

去る十月十三日、令和四年度山梨県神社関係者大会第一部として、山梨県神宮大麻暦頒布始祭が峡南支部を祭典奉仕当番として斎行された。

令和四年は明治四年に神宮の御師制度が廃止され、全国から神宮の御神札を待ち望む声に

え、翌明治五年に明治天皇様の「朝夕に皇大御神を慎み敬い拜むための大御璽として神宮大麻を国民全戸に漏れおつることなく奉斎せしめよ」との御聖慮により、現在の神宮大麻が全国民に頒布される様になって百五十年という佳節に当たり奉仕者も大麻頒布を再認識する中、謹んで奉仕させていただいた。

当日午前十時祭員集合。多数の祭員による祭典奉仕は年間を通じて多くは無い者ばかりであり、高原祭式講師の指導の下習礼、打合せには念を入れ行われた。

いざ本番は気持ちも入る中、山梨県神道雅楽会による奏楽も

有り、緊張の中にも清々しく斎行する事が出来たものと思う。祭儀は次第通り進み、最後に神宮大麻並暦が齋主より庁長に、さらに庁長より各支部長へと頒たれ滞りなく祭典を終えることが出来た。

第二部記念講演では、「神宮大麻全国頒布百五十周年記念講演」と題して、神宮禰宜石垣仁久先生より神宮大麻について、また神宮大麻頒布の歴史について丁寧で分かりやすいご講演を頂いた。

第三部の式典は古屋副庁長の開式の辞で始まり神宮遥拝、国歌「君が代」斉唱、乙黒神社庁理事の先導による敬神生活の綱領唱和の後、小佐野庁長より式辞が述べられた。次いで、小尾総代会長の挨拶がなされた後、参事より庁務報告が行われた。功績表彰では、神社庁表彰規程に基づき厳正なる選考、審査により決定した、令和四年度山梨

県神社庁規程表彰者五名に対し、代表者が登壇し、小佐野庁長より表彰状が授与された。次に、山梨県神社総代会表彰規程に基づき厳正なる選考、審査により決定した、令和五年度山梨県神社総代会規程表彰者二十七名に対し、代表者が登壇し、小尾総代会長より表彰状が授与された。次に、神社本庁規程表彰者三名に対し、代表者が登壇し、神社本庁統理鷹司尚武様（御名代神社本庁長老中山高嶺様）より表彰状が伝達された。次に、全国神社総代会規程表彰者二名に対し、代表者が登壇し、小尾総代会長より表彰状が伝達された。次に、神宮大麻全国頒布百五十周年記念表彰者二十五名に対し、代表者が登壇し、神宮大宮司久邇朝尊様（御名代神宮禰宜石垣仁久様）より表彰状が伝達された。次に、めでたく米寿、卒寿を迎えられた六名の神職に、長寿のお祝い記念品が贈呈された。次いで来賓の祝辞があり、神社本庁統理鷹司尚武様（御名代神社本庁長老中山高嶺様）、神宮大宮司久邇朝尊様（御

名代神宮禰宜石垣仁久様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連副会長服部憲明様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様の四名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部八幡神社禰宜藤本文彦氏より謝辞があり、次いで小尾総代会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、小山副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた

名代神宮禰宜石垣仁久様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連副会長服部憲明様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様の四名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部八幡神社禰宜藤本文彦氏より謝辞があり、次いで小尾総代会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、小山副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた

名代神宮禰宜石垣仁久様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連副会長服部憲明様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様の四名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部八幡神社禰宜藤本文彦氏より謝辞があり、次いで小尾総代会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、小山副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた

名代神宮禰宜石垣仁久様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連副会長服部憲明様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様の四名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部八幡神社禰宜藤本文彦氏より謝辞があり、次いで小尾総代会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、小山副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた

名代神宮禰宜石垣仁久様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連副会長服部憲明様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様の四名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部八幡神社禰宜藤本文彦氏より謝辞があり、次いで小尾総代会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、小山副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた

名代神宮禰宜石垣仁久様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連副会長服部憲明様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様の四名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部八幡神社禰宜藤本文彦氏より謝辞があり、次いで小尾総代会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、小山副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた

名代神宮禰宜石垣仁久様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連副会長服部憲明様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様の四名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部八幡神社禰宜藤本文彦氏より謝辞があり、次いで小尾総代会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、小山副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた

名代神宮禰宜石垣仁久様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連副会長服部憲明様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様の四名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部八幡神社禰宜藤本文彦氏より謝辞があり、次いで小尾総代会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、小山副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた

名代神宮禰宜石垣仁久様）、神道政治連盟会長打田文博様（御名代神政連副会長服部憲明様）、自民党山梨県連会長代行山梨県議会議員皆川巖様の四名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。来賓の方々の紹介、祝電披露の後、披表彰者を代表して、北都留支部八幡神社禰宜藤本文彦氏より謝辞があり、次いで小尾総代会長の先導により聖寿の万歳が奉唱され、小山副庁長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた



# 被表彰者抱負

八幡神社

榎宜 藤 本文 彦



去る令和四年十月十三日に開催された令和四

年度山梨県神社関係者大会において規程表彰授の栄に浴し身の引き締まる思いである。昭和六十三年國大卒業と同時に父祖累代の八幡神社の榎宜を拜命して以来、大神様の御加護と先輩神職の御指導、信仰心の篤い氏子、総代諸氏の協力、支えてくれた家族の賜物と感謝申し上げる次第である。現在、業界団体に勤めながらの神明奉仕であるが、宮司である父を支え大月市内の本兼務社十四社を担当している。いずれの地区も少子高齢化、人口減少が急激に進んでおり、神輿の担ぎ手不足や神楽の後継者不在など難しい課題が山積している。そしてこのコロナ

禍である。ほとんどの神社で規模を縮小しての例祭になっているが、コロナ収束後に以前の祭が復活できるか心配しているところである。奉務神社の三嶋神社の境外末社に、疫病退散にご利益がある津島神社から勧請された天王社が、甲州街道の東西の分岐点に鎮座しており、毎年八月上旬に例祭が斎行される。今年、氏子の若い方にご祭神のことを尋ねられたが、説明をするところコロナ禍において参拝できなかったことを喜んでおられた。氏子、地域の方達とのふれあいの大切さを改めて実感したところである。本年度、北都留支部の副支部長を仰せつかり、慣れない職務に困惑しているが、中村支部長を支え微力ではあるが神社庁の施策に貢献してまいりたい。神社がおかれている環境は大変厳しいものがあるが、これを解決する特効薬は無い「心機一転」神職を志した初心に帰り日々を過ごしてまいりたい。

# 全国神社総代会規程表彰を受賞して

北都留神社総代会 副会長 石 原 英 司

去る令和四年十月六日、全国神社総代会札幌大会において全国神社総代会規程表彰を拝受致しました。身に余る光栄と只々感謝の念に堪えません。平安時代中期の書物「和名抄」に「古郡の里光燈明神」と記された由緒ある牛倉神社の氏子総代を拝命して十余年、何世代に渡って受け継がれてきた氏子崇敬者の心の拠り所である神社に氏子の代表者の一人として奉仕し、また、神社や総代会の運営にも務めてきたことをお認め頂いたと拝察しています。今日、新型コロナウイルス感染症が衰える気配も無く猛威を振るい蔓延する中で、どここの神社でも氏子の祈りの場であり、楽しみの場でもある祭事祭礼が感染防止の名目のもと中止や縮小を余儀なくされ、氏子の里に少なからず影を落としています。しかしながら、古来私たち日本人は疫病や災害に対し、氏神様に祈り氏子が支



え合うことで乗り越えて参りました。このような時こそ神職と氏子が心を一つに真摯に神事を行っていかねければなりません。私も一日も早く神社の境内に祭り囃子や子供たちの喜ぶ声が聞こえ、多くの賑わいが取り戻せるよう努めて参ります。今回の受賞は県下多くの総代の皆様を代表してのもの、今後ともこの栄を汚すこと無く、神社や総代会での職務を誠心誠意勤めて参ります。神社庁、総代会関係者の皆様には更なるご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

# 令和四年度全国教化会議報告

教化委員会 委員長 乙 黒 洋

去る十一月二十九日と三十日の二日間に亘り神社本庁に於いて、「令和四年度全国教化会議」が開催され、出席致して参りました。

本会議の主題は「三カ年教化実践目標実施による課題と展望」であり、その趣旨は、神社本庁が、今期令和二年度から令和四年度に定めた教化実践目標は、主題に「御大典を期して、三大神勅の心を次世代に」を掲げ、御代替を期に三大神勅の重要性を改めて認識し、その心を明らかにすべく実践に努めてきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の状況により様々な困難に直面し、活動が停滞したのも事実である。



本年は今期教化実践目標の最終年度にあたることから、「PDCAサイクルの手法」に則った三年間の活動を

振り返り、各々の事業の点検を行い課題等の抽出を行うとともに、相互に情報共有を図り、次期の教化実践目標策定に向けた検討を行い、更なる施策の展開に資することを目的とする。」であります。

第一日目は先ず、神社本庁牛尾教化広報部長より本教化会議の趣旨と本庁からの報告があり、続いて神社本庁教化講師・國學院大学教授黒崎浩行先生より、「祭祀の継承と地域共同体の復元力―大災害とコロナ禍を経て―」と題しての基調講演があり、その後、四班による分散会となり、班毎に前述の今期教化実践目標に向けての各種の取り組みや活動を、各県から報告し、情報の共有を諮る場となりました。

その夜には明治記念館に於いて、食事を開催し、感染症対策に留意した上で、基調講演・分散会で感じた事や話しきれなかった実状などを語り合いつつ、相互の懇親を深める場となりました。

第二日目は、分散会から始まり、昨日の各県報告を踏まえて、

次期の教化実践目標に対する要望を、取り纏めました。

その後、全体会となり、神社本庁教化講師皇學館大学教授櫻井治男氏、並びに神社本庁牛尾教化広報部長、湯澤本宗奉賛部長、荒井総務部長、浅山総合研究部長がパネリストとなり、各班の座長四名が登壇し、各班の分散会報告を副座長から頂いた上で、各パネリストからの意見

## 山梨県神道青年会「臨時総会」報告

山梨県神道青年会

深 澤 宜 彦

令和四年十二月一日午後六時より南都留郡富士河口湖町内「恵比寿 夜ノ森―河口湖―」にて臨時総会を開催し、会員十四名の参加を得て厳粛に執行された。

本臨時総会は会則第十七条第二項第三号に基づき招集され、当日は次第に則り、開会の辞、神宮遥拝、教化委員長先導による敬神生活の綱領、会長挨拶、議事では①次期会長選任の件、②次期監事選任の件の二件の議案について審議が行われた。  
①次期会長選任の件に付きまして、慣例により会長が次期会長として富士吉田市新屋鎮座山神社禰宜濱武尊君を選出し、会則

を拝聴し、次期目標に関する質疑応答となりました。

結びに閉会式を行い、神社本庁中恆清総長から、二日間に亘って、各県現場での教化活動に関する報告を具体的に頂くとともに、次期教化実践目標策定に向けて貴重な意見をお寄せ頂いた事に深く感謝申し上げる旨の挨拶があり、終了となりました。

第七条、会則第十三条及び第十八条に基づき次期会長の選任を議場に諮ったところ満場一致で承認された。

②次期監事選任の件に付きまして、慣例により次期会長が甲府市住吉鎮座住吉神社禰宜藤巻普紀君、富士吉田市上吉田鎮座富士山小御嶽神社禰宜小佐野正崇君を選出し、会則第七条、会則第十三条及び第十八条に基づき、監事二名の選任を議場に諮ったところ満場一致で承認されました。

議事終了後、次期会長に選任された濱武尊君より思いのこもった挨拶を頂き、監事講評、閉会の辞にて臨時総会を閉じた。



# 絵本 日本の神話

## 大国主の物語（第六話）



お子さん、お孫さんと、  
神話の世界をお楽しみ下さい。

「一般財団法人 日本文化興隆財団」提供  
問い合わせ 東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五―十  
電 話 〇三―五七七五―一―四五  
一冊 二〇〇円



火がおさまったころ 外へ出てみると、  
ねずみが 矢を見つけてきてくれました。  
「ねずみさん、なにからなにまで ありがとう。」

御殿にもどった オオクニヌシ。

「おおせのとおり、矢をもってまいりました。」  
スサノオは びっくり。

「信じられん、どうやって あの火の中を……？」  
とにかく よくやった。」

スセリヒメも とてもよろこびました。

「ところで、オオクニヌシよ。

わしは 頭がかゆくて しかたがないんじや  
もし 虫でもいたら

かみつぶしてくれんかな。」  
「わかりました。」







＜しでといってみると、

ムカデが うよつよいるではありませんか。

スセリヒメが オオクニヌシに

ムクの実と 赤土をわたしました。

それを

クチヤクチヤかんでは

はきだし、

ムカデを かみつぶすふりをしたのです。

「よくはたらく 若者だのう。」

すっかり 気持ちよくなったスサノオは

ぐっすり ねむってしまいました。





「そっだ、今のうちに にげよう。」と、  
オオクニヌシは 思いました。

スセリヒメも そばにやってきました。

「わたしもつれてって。」

お父様が おいかけてこられないように、

柱にかみを しばっておきましょう。」

ふたりはせつせと かみをしばりつけて、

そばにあった刀と 弓矢と 琴をもって

外へ とびだしました。





# 神社庁顧問・参与会

逸見神社 榎直 森 越 靖 幸

十月三日(月)午後二時より、山梨県神社庁顧問参与会が甲府市のホテル談露館に於いて開催されました。

第一部の例会では、副庁長の開会の言葉に続き、神職身分二級に昇級した六名に神社庁参与の委嘱状が交付されました。続いて小佐野庁長並びに小尾総代会長よりご挨拶を賜り、引き続き飯田参事より神社庁の業務概要報告が行われました。

第二部の講話では、自衛隊山梨地方協力本部本部長一等陸佐である桑畑英紀氏より、「近隣諸国からの日本の防衛」というテーマのもと、我が国が抱えている近隣諸国からの脅威やその脅威に対しどのように対処・防衛するかなど、現在の状況や様々な事例を踏まえ、わかりやすくユーモア溢れるお話を拝聴いたしました。現在も続く北朝鮮のミサイル問題を始め中国による尖閣諸島問題・台湾情勢の緊迫化など我が国が抱える問題は多岐にわたります。改めて我

が国の防衛について考え直す良い機会となり大変有意義な講話となりました。

その後、会場を改め第三部の懇親会が開催され、顧問・参与の皆様と懇親を深めさせていただきました。

(参与を拜命して)

今般、山梨県神社庁の参与を拜命致しました。素より浅学非才の身ではございますが、身を引き締めて誠心誠意務めて参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



# 神殿新嘗祭

峡中支部 齋 藤 雄

令和四年十一月八日、神社庁神殿におきまして、神殿新嘗祭が斎行されました。今年の当番は峡中支部であり、齋主・小林英孝(天神社宮司)、副齋主・齋藤雄(巨摩八幡宮宮司)、祭員・野中武士(八幡神社宮司)、同・長田正純(松尾神社宮司)、同・齋藤茜(諏訪神社禰宜)、典儀・穂坂武徳(八幡神社宮司)の計六名で奉仕いたしました。

また、雅楽は、山梨県神道雅楽会の皆様方に奉仕をいただきました。

コロナウイルスの七波が終わり、感染状況は落ち着いている状況ではありましたが、奉仕者、参列者全員マスクを着用し、感染症対策を徹底して執り行いました。

私は神社庁神殿での奉仕が初めてであり、副齋主という大役が務まるか不安でありましたが、事前に集まって習礼を行い、先輩方と共に作法を入念に確認しました。特に直前には、祭式講師の桃井一祝先生にお忙しい中のご教授頂きました。

当日は、海川山野の種々の味物を供奉り、齋主により神殿新

嘗祭祝詞奏上を執り行い、天照皇大神をはじめとした八百万大神の御恵に感謝を申し上げます。

緊張により固くなってしまい反省すべき点もございましたが、皆が一生懸命奉仕し、無事に祭典を執り納めることができました。ご協力いただきました桃井先生を始め関係者の皆様にはこの場をお借りして感謝を申し上げます。

コロナウイルスの影響で直会も自粛となりましたが、一日も早くこの状況が打ち破られまして、本来のあるべき姿に戻りますことをご祈念申し上げます。結びといたします。



祭典を斎行して

御鎮座千二百年式年祭

武田八幡宮

宮司 内藤 希

一望千里の山々を見渡す神山の地に御鎮座致します武田八幡宮は、本年創建千二百年を迎えました。八百二十二年、弘法大師闕左遊化の日、八幡大菩薩が武田の郷に神勅したと伝えられ、嵯峨天皇の勅命を受けて宇佐神宮より勧請し、武田武大神と共に合祀、創建されました。御祭神は誉田別命・足仲津彦命・息長足姫命・武田武大神の四柱の神様です。



去る令和四年十月三十日、式年祭が斎行されました。記念事業実行委員会は、功刀会長を始め江上総代長、氏子総代出席のもと、事業・工事計画等、幾夜もかけて会議を重ね、祭典の細部に至る迄大変入念な検討が為されました。祭典前日は、信玄公祭り甘利備前守虎泰隊の戦勝祈願祭及び出陣式が行われ、その後テント設営・式典の点検準備が実施されました。実行委員会には大変なご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。

当日早且社殿を整え、定刻社務所前にて参列者一同手水参進し、笙の音の美しく響く中で式

は肅々と進みました。平安の古の人々から、途切れることなく続く神様への祈りと感謝はとても歴史の重みを感じさせ、今日のこの日を迎えることに、とても言葉にできない感動で胸が熱くなり感無量でした。神社庁峡北支部石原貞夫宮司、篠原敬逸宮司、今橋武宮司のご支援をいただき、大勢の来賓の方々にご参列を賜り、千二百年の奉祝と感謝を申し上げます。その後、美しい神楽装束と神楽面の披露が行われ、武田八幡宮を守る会代表の大村智博士の蕎麦所でお開きとなりました。



このお社で元服し武田を名乗った信義公、神社再建と完成を為した信虎・信玄公、麦わらで屋根を直した氏子衆など、その歴史上大勢の手と馳まぬご敬神でこのお社は守られてきました。大村博士から頂いた言葉に「人のために」「至誠通天」があります。人のためにあれ。清き真心を尽くせば、いつか必ず天に通ず。この言葉をいつも胸に刻み、純粹な真心を持って邁進して参りたいと思います。



# 教化委員会活動報告

委員長 乙 黒 洋



員の皆さんが意見を述べやすいような雰囲気を作るように、心掛けております。

左記に、今期の、部会構成並びに主要事業をお示し致します。

### ◎部会と体制

教化委員長 乙黒洋

副委員長 稲葉政信

一、事業部 (八名)

事業部長 篠原敬逸

副部长 中川武仁

部 員 藤巻普紀・古屋真東・  
菅本恵・小林英孝・  
内藤希・竹埜元木

二、研修部 (七名)

研修部長 松田公仁

副部长 田邊將之

部 員 高原光啓・渡辺英明・  
小野修・福田恵介・  
小佐野正崇

三、広報部 (五名)

広報部長 渡邊千紗

副部长 今村和弘

部 員 根津佳明・鈴木晃・  
小田切宣幸

四、特別部会

◎主要事業

一、事業部

①緑陰子供会の継続実施

②国旗掲揚運動の推進

③親子参宮団の継続実施(研修部合同)

④神社や神道への理解を促す広報展の計画実施(事業部合同)

二、研修部

①講演会の実施(祈年祭開催時)

②各種研修の実施(禊錬成、宿泊、県外)

③親子参宮団の継続実施(事業部合同)

三、広報部

①新聞広告の継続実施

②神社庁ホームページの内容等の確認、提言運

③神社や神道への理解を促す広報展の計画実施(事業部合同)

四、特別部会

①委員会諸事業の統括

②新規事業の検討

◎前期委員会からの送り事項及び、見込まれる新事業

(正副委員長及び各部長 五名)

### ◎主要事業

#### 一、事業部

①緑陰子供会の継続実施

②国旗掲揚運動の推進

③親子参宮団の継続実施(研修部合同)

④神社や神道への理解を促す広報展の計画実施(広報部合同)

#### 二、研修部

①講演会の実施(祈年祭開催時)

②各種研修の実施(禊錬成、宿泊、県外)

③親子参宮団の継続実施(事業部合同)

三、広報部

①新聞広告の継続実施

②神社庁ホームページの内容等の確認、提言運

③神社や神道への理解を促す広報展の計画実施(事業部合同)

#### 四、特別部会

①委員会諸事業の統括

②新規事業の検討

◎前期委員会からの送り事項及び、見込まれる新事業

①新規事業の検討・実施

※教化資材頒布、青少年を主要対象とした企画、伝承芸能(神楽など)の調査

②過疎地域神社活性化推進施策への取り組み

※過疎地域活性化委員会との連携

③次期遷宮を見据えた各種事業の検討

※一般企業、公共団体等との連携

④明治天皇踐祚大嘗祭悠紀田関連の事業

※山梨銘醸との連携、明治神宮記念事業

⑤教化研修旅行



# 時局研修『航空自衛隊浜松広報館見学旅行』報告

神道青年会 教化部長 岡田 美佐子

去る令和四年十月五日、山梨県神道青年会の教化部の事業として時局研修『航空自衛隊浜松広報館見学旅行』が開催されました。

既に御存知の通り、ロシアがウクライナへ侵略してから、世界情勢は非常に緊迫した状況に陥りました。我が国周辺に於いても、当事国であるロシアや中国、北朝鮮による領空・領海の侵犯、ミサイル発射等が頻発し、国防について盛んに議論されるようになりました。このような情勢の中、我が国の防衛を担う自衛隊について理解を深めるべく、本研修を計画致しました。当日は天候にも恵まれ、爽やかな秋晴れの中、七名の会員の参加となりました。

午前は、浜松の地名の由来と伝わる『浜の松』のある浜松八幡宮にて正式参拝を行い、桑島宮司様よりお宮の御由緒や歴史等の貴重なお話を伺いました。

午後は航空自衛隊浜松広報館『エアパーク』を見学しました。館内には、年配の方々や親子連れなど、老若男女様々な年齢層の方が訪れていました。自衛隊の装備品や、多種多様な航

空機等ここでしか見られない貴重な展示品の数々に、会員一同時間が経つのも忘れて見入っていました。

また基地からは航空機の轟音が幾度となく響き渡り、訓練機でしようか、白銀に輝く機体が雲を突き抜け大空へ飛び立つ姿を間近に見ることが出来ました。繰り返し見られる離着陸に、この弛み無い訓練こそが国防の礎になつていると感じた次第です。

不安定な世界情勢を受け、世論では『憲法九条で国が守れるのか』『有事の際日本はどうなるのか』という声が大きく上がり、同時に自衛隊が注目される事となりましたが、これが一過性のものでなく、一人でも多くの国民が国土防衛のあり方について関心を持ち、真剣に考えるきっかけとなる事を願っています。



## 祭典日程

1・29	富士吉田市新屋連神社節分追儺祭
2・1	大嶽山那賀郡神社節分祭 白州町白須若宮八幡神社折年祭
2・3	住吉神社節分祭 稲積神社節分祭 甲府市中央大神宮祭 甲府市中央大神宮節分祭 忍野村忍草浅間神社節分祭 忍野村内野浅間神社節分祭 富士河口湖町船津八王子神社節分祭 富士河口湖町船津簡口神社節分祭
2・4	忍野村忍草浅間神社簡粥祭並びに秋葉祭 忍野村内野浅間神社簡粥祭
2・5	富士吉田市上暮地神明社節分祭 稲積神社針供養祭 御坂町三之宮美和神社湯立祭
2・8	甲府市宮前町八幡神社紀元祭 甲府市国玉町玉諸神社折年祭(桑の棒神事)
2・11	市川三郷町宮原浅間神社建国記念祭・氏子祈願祭 中央市布施八幡見神社折年祭 建国祭
2・12	身延町八日市場八幡神社春祭・厄除祈願祭 南アルプス市上今諏訪神社折年祭
2・16	生出神社折年祭
2・17	甲府市宮前町八幡神社折年祭 上野原市上野原牛倉神社折年祭 富士吉田市松山松尾神社折年祭 忍野村忍草浅間神社折年祭 忍野村内野浅間神社折年祭 上野原市上野原諏訪神社折年祭
2・19	甲府市酒折折宮折年祭 山梨市下栗原大宮五所大神折年祭
2・20	韮崎市穴山町見神社折年祭
2・25	小淵沢町小淵沢見神社折年祭
3・1	三郷町市川大門町弓削神社折年祭
3・5	南アルプス市下宮地神部神社引き祭
3・12	浅間神社山宮神社祭
3・18	昭和町西条義清神社折年祭
3・21	一宮町橋立甲斐妻神社春祭例大祭
3・26	一宮町末木町之木八幡宮春祭例大祭 増穂町天神中条天神中条天満宮天神中条天満宮春祭例大祭 南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮春祭例大祭
3・29	勝沼町蓼山古宮大神社春祭例大祭

3・30	塩山土蔵原神社例大祭
4・1	御坂町二之宮美和神社例大祭
4・2	住吉神社春祭例大祭 御坂町二之宮美和神社例大祭 牧丘町北原神社春祭例大祭 中央市浅利諏訪神社春祭例大祭 南アルプス市市百々諏訪神社春祭例大祭 南アルプス市小笠原笠原神社春祭例大祭 韮崎市穴山町御名方神社春祭例大祭 須石町小倉八幡神社春祭例大祭
4・3	山和町市部石和八幡宮春祭例大祭 山町北宮地武田八幡宮折年祭 山梨市正徳寺唐土神社春祭例大祭 勝沼町等々力諏訪神社春祭例大祭 石和町川中島比枝神社例大祭 南アルプス市吉田諏訪神社春祭例大祭
4・4	春日居町鎮目山梨岡神社大祭 牧丘町西保中菅神社春祭例大祭
4・5	山梨縣護國神社春祭例大祭 八代町北熊野神社春祭例大祭 春日居町鎮目山梨岡神社大祭
4・8	富士吉田市大見見小室浅間神社例大祭
4・9	市川三郷町宮原浅間神社例大祭(河内御幸) 甲府市下鍛冶屋町鈴宮諏訪神社例大祭 甲府市小淵町天津司神社春祭例大祭 南アルプス市下宮地神部神社春祭例大祭 上野原市大野惣祖神社春祭例大祭 甲府市善光寺柴宮神社春祭例大祭 富士川町飯沢八幡神社春祭例大祭 牧丘町倉科黒戸神社例大祭 藤井町南下条福地八幡神社春祭例大祭
4・10	浅間神社例大祭 大神幸祭 甲府市中央甲斐妻神社例大祭 甲府市国玉町玉諸神社例大祭 富士川町飯沢八幡神社例大祭 富士吉田市松山松尾神社例大祭(十六日)
4・15	甲府市宝穴大神社春祭例大祭 甲府市国玉町玉諸神社郷土の祭り 甲府市酒折折宮諏訪祭 甲府市高畑住吉神社春祭例大祭 甲斐市長塚長塚神社春祭例大祭 富士河口湖町浅川白山神社春祭り 猿橋町猿橋諏訪春日神社春祭例大祭
4・17	大嶽山那賀郡神社例大祭(十八日) 生出神社與宮祭



総代広場 第十一回

〈峡北支部〉

武田八幡宮 総代長 江上 年秋

令和四年十月三十日、武田八幡宮御鎮座千二百年記念式典を執り行いました。神事は新しく就任した宮司のもと、峡北支部長の石原宮司はじめ神職の皆様にご奉仕いただき、氏子、崇敬氏子、武田八幡宮を守る会代表の大村智博士、来賓として特別奉賛者及び市長、観光協会、商工会他関係団体、並びに境内改修工事業者のご臨席を賜り恙なく齋行できましたことは感謝と喜びでいっぱいです。

武田八幡宮は、今から千二百年前の八百二十二年に創建され、その三百年後甲斐源氏四代目となる武田信義公が神殿で元服し、ここを氏神としました。

信義公は八幡宮の本社・末社などを御造営され、再興を図りました。その四百年後、信虎・信玄公親子が、甲斐統一の達成は武田八幡宮の御神徳によるものだと再建に着手し、雄大華麗な本殿をはじめ拝殿・神楽殿・隋神門や鳥居に至るまで整備し



たと伝えられています。その後幾度か自然災害に遭われましたが、先祖代々が後世の為にと保存修理を重ね、この時代の物が現存されている状態です。私たち氏子は引き継いだ八幡宮を更に後の世まで受け継がれるよう千二百年記念事業を計画し令和元年より取り組みました。氏子六十五戸の小さな部落、厳しい予算の中ですが皆様の協力を得て、本殿をはじめ摂社若宮八幡宮、石段石垣の改修及び境内樹叢の枯枝落とし等を行い、参拝客が安全第一で、また豊かな気持ちで参拝できますよう日々努力を重ねているところで

コロナ禍から一日も早く抜け出されることを祈念します。 今回、参加者募集のご案内するにあたり、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で応募があるか不安でしたが、百六十五名の方々に応募していただき大型バス五台に分乗して山梨を出発致しました。

一日目は、豊受大御神さまが祀られている外宮に御垣内参拝、昼食をはさんで、おかげ横丁を各自散策を楽しんだ後、天照大御神さまを祀っている内宮に御垣内参拝に参列させていただきました。その後大々神楽の特別奉納を参観いたしました。一日目の行程を終えることができました。宿泊先である鳥羽のホテル

〈南都留支部〉

総代会長 三枝 正満

去る、十一月十七日(木)、十八日(金)の二日間の日程で、南都留支部ではコロナ禍のもと伊勢神宮新穀感謝祭参拝旅行が三年ぶり催行することが出来ました。

参拝旅行を計画するにあたり山梨県神社庁長小佐野正史様、南都留支部長宮下重範様をはじめ関係各位のご理解、ご尽力を得て催行する事ができました。大変な喜びであります。

今回、参加者募集のご案内するにあたり、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で応募があるか不安でしたが、百六十五名の方々に応募していただき大型バス五台に分乗して山梨を出発致しました。

戸田家に於て、夕食を兼ねて宴会があり大変盛り上がり楽しい一夜を過ごすことができました。 二日目、ホテルを出発して、海産物のショッピングを楽しみ一路、滋賀県甲賀市土山町に鎮座している、主祭神坂上田村麻呂公が祀られている田村神社を正式参拝致しました。宮司様をはじめ職員の方々に手厚い出迎えに一同感激致しました。昼食を浩養園サップロビル園で頂いたのち山梨に向け帰路につきました。来年度も開催を予定しています。多くの皆様がご参加下さいますようお願い申し上げます。報告と致します。



年男  
年女

令和五年 癸卯



## 「年男」に思いをはせる

熊野神社 宮司 岩間 秀人



日ごろ、干支に関心を持つことはほとんどありませんが、年の瀬になると身近に感じるようになります。「干支」と「年男」という言葉が子どものころの思い出とつながっているからです。

「来年は卯年だから秀人は年男だね。何かいいことがあるかもしれないね」と大晦日に言われました。そう言ったのは父なのか母なのか記憶は定かではありません。まだ、小学六年生だったので、「年男」の意味が理解出来ずにおりました。それでも「年男」「いいことがある」という言葉は記憶に残っていて、大人になってから年末になるとその時のことを思い出します。

誕生日が二回あります。私実際に生まれたのは暮れも押し迫った十二月三十日。出産のために実家に里帰りをし、正月準備を手伝っていたら産気づき、お産婆さんが取り上げてくれた、と母が話してくれました。今では考えられませんがその当時はまだ数え年の考えが強く、すぐ新年になって齢を重ねてしまうのはかわいそうだということで、年が明けた一月二日生まれで届けたそうです。

そのことを知って以来、寅年と卯年は年男だと勝手に決めています。二年間も年神様のご加護を受けることができますのでこんないいことはありません。神様のお力をいただき、氏神様と氏子の皆様のつながりをさらに強め、活力のある地域にしていきたいと思えます。また、日本全国の年男年女のパワーでコロナ禍を追い払い、さらにはウクライナ戦争の終結など、平和で豊かな世界が実現できるよう願っています。



## 年男（還暦）を迎え

富士山小御嶽神社 権禰宜 小佐野 良 三



最近まで、還暦はまだ先の話と他人事のように気にすることもなかったのですが『かひがね』の原稿依頼が届き、年男？あーそうだった、周りから「まだ若いね」などと言われながらも、還暦なんですね。

世間では、リタイヤ組、第二の人生のスタートなどと言われていますが、世の中知らないこと、やり残してきたことばかり、やっと第一の人生の最初のステップから次のステップへと駒を進められるようになったのかなと感じています。

近頃では神職として奉仕する機会が少ないのですが、一方で趣味としているスポーツでは、若者と張り合いながら現役続行中、食欲は年々増すばかり、いろいろと気を付けないといけない歳でもあり、還暦と聞き無茶無理は禁物と自分に言い聞かせる良い機会でもあります。

これを機に奉仕へ、スポーツへ、きつとこのまま第一の人生をやり続け、ステップアップを目指していくのでしよう。十二年後の年男、また次の年男と同じことを言い続けていたら人生を満喫しているともいえます。が・・・いつになったらゴールが見えるのか、第二の人生が始まるのか、まだまだ育ち盛りなどと勘違いをしている変わり者、周りで支えてくださる皆様に感謝感謝。

## 神様からのご縁をいただいて

浅間神社 権禰宜 須田 順子



令和五年は癸卯歳であります。これまでの努力が花開き実り始めること、といった縁起の良さを表します。

新型コロナウイルスの感染拡大が私たちの生活に大きく影響を与え、神社界においても、例大祭を始め様々な祭典も縮小して執り行われ、三年余りの月日が経ちますが、少しずつ回復し始める事を願います。

歳女を迎え、今までを振り返ってみますと、私は、高校生の時に新年の巫女奉仕をさせて頂いたことをご縁に、巫女として奉職。その後「神道を学びたい」と思い、直階・正階と二回に亘り國學院大學で神職養成講習会を受講させて頂き、神職の資格を取得致しました。

今日まで、浅間神社の職員の皆様、県内外の神職の皆様方と出会い、沢山のことをご指導頂いたことに感謝申し上げます。

また、近隣の神社の氏子の子供たちとの舞のお稽古を通して総代様や氏子の方々、神明奉仕を通して多くの崇敬者の方々と出会えたことも、神様のご縁があったからこそだと思います。

これからも神様のご縁に感謝し、多くの方々との出会いを大切に、初心を忘れることなく日々努力し、神明奉仕に努めて参りたいと思います。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

# 今後の予定

## ○神社庁神殿祈年祭並びに 教化講演会のお知らせ

神社庁神殿祈年祭並びに教化講演会を左記の日程で斎行いたします。

記

日時 令和五年二月六日  
(月曜・仏滅)

日程

神殿祈年祭 午後一時三〇分  
教化講演会 午後三時

「全国一万社以上の神社を巡った佐々木優太が提案する神社再興の道標」



講師 ミュージシャン  
神社巡拝家

神社ソムリエ  
佐々木優太先生

場所 山梨県神社庁 神殿

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、急遽開催内容を変更(延期或いは中止)する場合がございますので、予めご了承願います。

## ○靖國神社、山梨縣護國神社 参拝旅行

神道政治連盟山梨県本部では、恒例となりました靖國神社参拝旅行を左記の日程で実施致します。詳細な内容につきましては現在検討中ですので、決まり次第ご案内致します。山梨縣護國神社の参拝につきましては、別途開催致します。

尚、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、急遽開催内容を変更(延期或いは中止)する場合がございますので、予めご了承願います。

記

日程 令和五年三月二十九日  
(水曜・先負)



神社庁  
ホームページ  
リニューアルしました

**山梨県神社庁**

山梨県神社庁は県内の神社を包括する組織です

およそ1200社の由来や祭りを 県内神社の紹介	県内神社のお祭りの紹介です 郷土のお祭り
年4回発行しています 山梨県神社庁報	疑問を分かりやすく解説します 神社・神道について

神職専用ページ/申請書類のダウンロード



靖國神社



山梨縣護國神社